昭和大学藤が丘病院　昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2023年1・2月
第350号

病院だより第350号（2023年1・2月号）
発行者　昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院
発行責任者　藤が丘病院長　髙橋　寛
編集責任者　広報委員長　森岡　幹
〒227-8501　横浜市青葉区藤が丘1-30
TEL　045-971-1151

新年のご挨拶

藤が丘病院　病院長　髙橋　寛

新年明けましておめでとうございます。

年頭に当たり、本年の皆様の健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

COVID-19 の流行は相変わらず猛威を振るっています。今季はインフルエンザの流行も合わさって、ツインデミックの様相も懸念されています。デルタ株からオミクロン株へと変異しており、さらに新たな変異株として BA.5.2.1 から BF.5 への変異が主流となってきているようです。この様な状況下、大変残念なことに昨年末の第 8 波に伴う院内クラスターにより多数の患者さんにご迷惑をおかけしましたが、全職員の協力によりなんとか収束の目途が立ちました。今後もさらなるご協力をお願い致します。

藤が丘病院は卒後教育機関として、また地域における急性期医療を支える基幹病院として機能する役割を担っております。昨年は５月 12 日、13 日に行われた日本医療機能評価機構の認定審査の結果、藤が丘病院がただ単に基準を満たしているということだけではなく、より優れた病院として評価されました。高い評価が得られたことは職員一同の日頃の努力の結果であり、心より感謝申し上げます。

診療においては、令和２年４月に“地域がん診療連携拠点”として承認され、がんの専門的医療機関として活動してきました。令和３年 12 月には“がんゲノム医療連携病院”の指定も受け、令和4年の６月には“がん遺伝子パネル検査”を開始しております。今後のがん診療に関して、それぞれのがんの遺伝子変異に対して治療効果が期待できるゲノム治療薬があれば、使用を検討するオーダーメイドの治療が可能となります。

外科手術については令和 3 年に婦人科で当病院での最初のダ・ヴィンチ手術が施行され、通算すると昨年末で婦人科、消化器・一般外科および泌尿器科の症例を合わせて 150 症例の手術が行われ順調にダ・ヴィンチ手術の件数が伸びている状況です。

令和３年の丑年は、結果につながる道をコツコツと作っていく基礎を積み上げていく時期とされます。昨年の寅年の漢字の由来としては、「引く」や「伸ばす」などと同じニュアンスです。『漢書 律暦志』によると、“寅”は草木が伸びていく様を表した漢字と記されています。まさに一昨年から昨年にかけての藤が丘病院の着実な歩みに一致するものと思います。今年の卯年にあやかって昭和大学はもとより、藤が丘病院および藤が丘リハビリテーション病院の大きな飛躍を期待します。

新年のご挨拶

リハビリテーション病院　病院長　市川 博雄

令和５年の卯年という新しい年を迎えることとなりました。昨年同様に忘年会や新年会等の行事自粛のなかでの年明けとなります。長期戦に及んでいるコロナ禍において、職員の皆さまには心身ともに苦労が続くなか、病院運営に献身的なご協力を頂き深く感謝致します。

昨年のコロナ禍においては、入転院前の PCR 実施などにより感染予防を強化しておりましたが、夏期そして冬期と新型コロナ感染の院内複数発生があり、病棟制限により稼働が大きく落ち込むことになりました。このような時期ではありましたが、施設基準に係る適時調査、消防査察、医療安全相互ラウンド、学内機能評価等の院内行事を、職員全員が一丸となって協力を頂き乗り切ることができました。

また、昨年度の診療報酬改定により回復期病棟の施設基準が厳しくなり、看護必要度の基準が３割から４割と高く設定されましたが、関連部署の尽力によりこれを達成維持することができました。これらの経験を活かし、病院機能のさらなる改善に繋げていければと思っております。病院のなかにおける診療行為や看護、そしてリハビリテーションを実施するにあたっては、人と人との密な接触を避けることができませんが、可能な限りの感染予防策を講じつつ、病院の役割であります十分なリハビリテーションを提供してまいりたいと思います。職員のみならず、感染予防のための面会制限や外出制限、入転院前に加えて入院後の PCR 実施を追加するなど、患者さんやご家族にも理解を得ながら感染予防に努めてまいりたいと思います。

今年の干支は「癸卯（みずのと・う）」となりますが、「癸」には次の新たな生命が成長し始める、「卯」にはうさぎの様に跳ねあがるという意味があり、「癸卯」には「これまでの努力が花開き、勢いよく成長し飛躍する年」といった意味合いがあるようです。コロナ禍が明け、一日も早く平穏で明るい日々になりますことを心より祈念致しまして、新年のご挨拶とさせて頂きます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

充実した医療連携を目指して

昭和大学藤が丘病院　歯科・歯科口腔外科
岡松　良昌

2021 年 4 月より昭和大学藤が丘病院、歯科・歯科口腔外科の責任者をしております岡松です。当科は当院１階で診療を行っておりますが、皆さんは病院内の歯科にどのようなイメージをお持ちでしょうか？　今回、私たちが現在行っている医科歯科連携と病診連携についてご紹介したいと思います。

【医科歯科連携】

私たちは、当院および藤が丘リハビリテーション病院に入院中および入院予定の患者さんに対して各診療科と連携して歯科的な介入を行っております。入院中に起こる歯の痛みや詰め物の脱離、義歯の不具合などの一般的な処置はもちろん、口腔清掃が困難な方への口腔ケアなど、口腔内のトラブルに対して幅広く対応しております。現在最も積極的に行っているのは周術期口腔機能管理で、これは、がんの外科手術、抗がん剤治療、放射線治療、また移植手術や心臓血管手術における周術期に歯科が介入することで、それらの治療をサポートするものです。つまり手術時に歯科が介入し、口腔清掃などを行うことで術後の肺炎予防や動揺歯の脱落・誤飲などのアクシデントも防止することが可能です。また抗がん剤治療や放射線療法中に歯科が介入することで、それら治療の副反応である口内炎・粘膜炎の発症を軽減できると言われています。近年、口腔細菌が様々な全身疾患の発症や増悪に関与している可能性が示唆されており、各診療科と連携することで、それぞれの疾患の治療に対し歯科的なサポートを行っています。

【病診連携】

地域の医療機関から紹介された、観血的処置を主体とした歯科口腔外科に関する診療も行っております。例えば顎骨内に埋まった親知らずの抜歯や、配慮が必要な全身疾患を有する患者さんの抜歯など、地域の歯科医療機関では対応困難な症例、さらに口腔内の粘膜疾患や歯が感染源となる炎症など多くの症例に対応しています。抜歯に関して強い恐怖心をお持ちの患者さんに対しては、麻酔科との連携により静脈内鎮静法を併用し、リラックスした状態で処置することも行っております。また必要であれば入院、全身麻酔下における抜歯も行っております。

現在の歯科外来は歯科ユニットが３台、歯科医師２人と歯科衛生士２人、受付１人の体制で診療しております。私たちはご紹介いただいた患者さんに安心・安全な医療の提供を心がけ、２つの連携を充実させるべく日々診療を行っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2022 年病院功労賞の表彰が行われました

12 月 15 日（木）、病院運営委員会の冒頭で 2022 年病院功労賞と研究奨励賞の表彰が行われ、受賞者に表彰状と副賞が授与されました。病院運営や研究文化の発展に貢献した職員を表彰することにより意欲の向上を図り、より安全・安心で質の高い医療を患者さんに提供していけるよう、病院としても邁進してまいります。

【藤が丘病院受賞者】
- 病院功労賞：防災センター
- 研究奨励賞：消化器・一般外科　内田 恒之 助教
  放射線技術部　橘高 大介 係長

【リハビリテーション病院受賞者】
- 病院功労賞：ベッドアライアンスチーム
- 研究奨励賞：ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ　宮澤　僚 講師
  （藤が丘病院　管理課　平山　実佳）

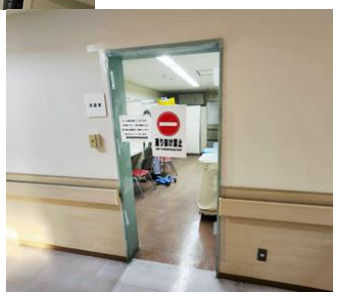
受賞者のコメント

感染対策

藤が丘病院　防災センター　神越　英夫

この度は、病院功労賞を頂きありがとうございました。防災センター一同感謝しています。感染対策は以前から行っていましたが 12 月に入り、病棟での感染が一部の一般病棟にも拡大した為、感染管理・管理課・病棟スタッフと協力しあい、職員・患者同士の接触を極力さけるために東西病棟間通路をビニールシートで仕切り、スタッフステーション前のエレベーターホールのみを通行可能としました。また、一般病棟からコロナ専用病棟にするため、病床にモニタリング用のカメラを設置していましたが、病床数増加に伴い、カメラの増設・専用病棟廊下にもビニールシートで仕切り、ゾーニングを定め、感染対策を強化しています。

今後も、各部署と連携をとり感染対策を行っていきますので、ご協力をお願い致します。



2022年研究奨励賞を受賞して

藤が丘病院　消化器・一般外科
助教　　内田　恒之

消化器・一般外科の内田恒之です。この度は研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。この受賞は、ご指導いただきました田中邦哉教授をはじめ、私の研究活動に対しご協力を頂きました教室内の先生方のお力添えによるものであり、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

私は胃癌をはじめとする上部消化管悪性疾患に対する外科治療を中心に診療を行っています。その中で、フレイルやサルコペニアといった筋肉量の減少や内臓脂肪肥満などの体組成に着目し研究を行っており、体組成が癌の進行度に関わらず術後短期および長期成績に影響を与えることを明らかにしました。研究結果を臨床にフィードバックできるよう、より一層努力してまいります。

横浜市の心リハをさらなる高みへ！！

リハビリテーション病院　リハビリテーションセンター
理学療法士　　宮澤　僚

この度は研究奨励賞をいただき大変光栄に思います。

当院では、横浜市行政と市内７つの心臓リハビリテーション（心リハ）強化指定病院で連携し、心リハの普及活動に取り組んでいます。私は、当院の代表の一員として、この心リハ普及事業に携わりました。当院と市内２病院で協力して作成した心リハに関する教育資材は、横浜市のホームページに掲載され、スポーツセンターのスタッフ教育資材として活用されています。

横浜市の心リハのページ

今回は、本事業の取り組みについて、学会発表や論文投稿をすることによって、全国に向けて発信していることを認めていただいたと思っております。

今後も自分の職域のみならず、多くの医療者へ広めていく活動を継続していきたいと思います。

院内がクリスマスムードに

2022年12月1日～25日の間、藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院にてクリスマスツリーを設置いたしました。院内に入られた際にクリスマスツリーに感動されているお声を多々拝聴いたしました。院内にいながらもクリスマスの雰囲気を味わっていただけたと思います。今年度もコロナウイルスの流行により思う存分クリスマスを楽しむことができなかった方もいらっしゃると思います。来年度こそは皆様が思う存分クリスマスを満喫できるようになることを願っております。

（藤が丘病院　管理課　　中村　優花）

青葉水道事務所による災害時給水訓練が行われました

12月7日（木）、横浜市水道局青葉水道事務所の職員の方々が当院において、大規模災害時に水道水が断水した際に、給水車や水道管からホースで直接貯水槽へ水を供給するための災害時給水訓練を行いました。医療機関では飲用水だけでなく透析や医薬品の調製、各種検査等、救命治療に水が必要不可欠であるため、災害時であっても必ず水を確保しなければなりません。緊急時には水道局の方と病院の職員が協力して給水を行うこととなるため、専用の工具によるマンホールや止水栓の開け方等をご指導いただき、実際に職員が体験させていただく場面もありました。今後も災害に備えて関係機関との協力体制を整えてまいります。

（藤が丘病院　管理課　　平山　実佳）

市民公開講座を開催しました

昨年 12 月 22 日(木)から今年の 1 月 19 日(木)にかけて、令和 4 年度第 2 回市民公開講座を開催いたしました。今回も残念ながら Web 開催(YouTube)となりましたが、多くの方にご参加いただきました。今回、視聴後アンケートで頂きました皆さまからのご意見を、今後の市民公開講座の運営等で活用させていただきます。

講座1．昭和大学藤が丘病院におけるロボット支援下前立腺全摘除術　～初期導入経験～
藤が丘病院　泌尿器科
助教　　下山　英明

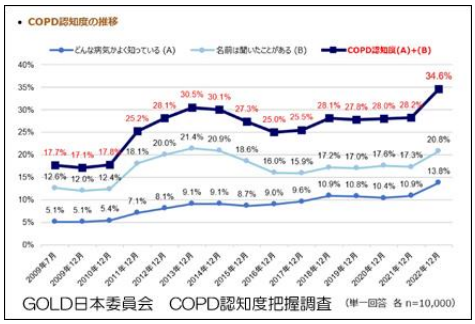
講座2．1 人でもできるリハビリテーション
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院　リハビリテーション科
准教授　　橋本　圭司
（藤が丘病院　管理課　　廣井　高志）

COPD の認知度はまだまだ低い

リハビリテーション病院　リハビリテーションセンター
技師長　　齊藤　哲也

2018 年に厚生労働省より発表された市区町村別平均寿命の 1 位が横浜市青葉区の男性だったことは記憶に新しいと思います。5 年毎の発表なので、今年の 4 月に最新ランキングが公表される予定です。一方で 2019 年に発表された市区町村たばこ税ランキングでは、横浜市は大阪市に次いで 2 位でした。ご存知の通りたばこを吸う人に起こる病気が慢性閉塞性肺疾患（COPD）です。この 2 つのランキングを見ると、たばこをたくさん吸っても平均寿命 1 位ということなので、横浜市は COPD に対するケアが行き届いている？　と思いたいところです。

国内の COPD 患者数は約 530 万人と推定されていますが、実際に病院で COPD の診断を受けた患者数は約 22 万人で推定患者数の 5%にも満たない状況です。また、COPD による死亡者数は 2025 年までに 3 位になると予想されていましたが、2018 年以降は COPD が死亡原因となる患者数は増加していません。COVID-19 などの肺炎や心疾患が死亡原因とされる中に、診断されていない COPD が多く含まれていると考えられています。



COPD の認知度は「名前は聞いたことある」と回答した人を含めても 2022 年 12 月現在で 34.6%とされています（GOLD 日本委員会）。COPD などの呼吸器疾患に対する呼吸リハビリテーションの届出施設数も、脳血管リハビリテーションや運動器リハビリテーションに比べて非常に少ない現状です。古くは慢性肺気腫と呼ばれていた COPD に対する呼吸リハビリテーションは、1960 年からチーム医療でのリハビリテーションが構築されていました。60 年以上前から呼吸リハビリテーションが行われていたにも関わらず、なぜ普及していないのか？　それは我々理学療法士の誕生した時代が、結核が減少して脳血管障害がクローズアップされてきた時期という時代背景からの影響もあるようです。

このような状況の中、21 世紀における国民健康づくり運動「健康日本 21」では、COPD に対して、予防及び管理のための包括的な対策を講じることを重視しています。そして、COPD への対策は国民の健康寿命の延伸を図る上で重要な課題であるとし、早期発見、早期治療、認知度目標を 80%としています。COPD の認知度を向上させるため、独立行政法人環境再生保全機構と協力し、呼吸リハビリテーション指導者研修を修了したリハビリテーションスタッフが、各地で肺年齢測定会や呼吸リハビリテーションの普及活動を行っていますが、目標の認知度 80%まではまだまだ遠い道のりです。

診療統計　　２022 年 12 月

	藤が丘病院	リハビリテーション病院
外来患者数	26,112 人　（1 日平均／1088.0 人）	7,658 人　（1 日平均／194.1 人）
入院患者数	11,179 人　（1 日平均／360.6 人）	4,616 人　（1 日平均／148.9 人）
紹介率	87.1%	79.7%
逆紹介率	81.7%	83.4%

≪広報・公開講座委員会委員≫

森岡　幹　　酒井　広隆　　鈴木　洋　　佐々木 春明　　今井　敦　　市川　度　　松原　大
小岩　文彦　　髙木　睦子　　前田 うづみ　　山寺　志保　　孫　雨晨　　岡部　圭吾　　門田　美佳
川手　信行　　佐藤 美津恵　　西村　栄一　　廣井　高志　　髙橋　良治　　（順不同）